

《担当者名》井関 健

【概要】

薬理学は薬物と生体の相互作用を理解する学問である。本講義では、医薬品がどのようなしくみで生体に作用するかについての基本知識を習得する。さらに薬物の体内動態などの薬物に影響を及ぼす要因や、薬物の副作用についての知識を習得する。これらの授業内容を通じて医薬品と生体の相互作用に関する理解を深め、リハビリテーション医療に生かせる薬物の基本的な知識を身につける。

【学修目標】

【一般目標】

理学療法士、作業療法士として必要な薬物の基本的な知識を身につける。

【行動目標】

1. 薬物の作用様式と作用機序を説明する。
2. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄を説明する。
3. リハビリテーション医療と関連する主な薬物の薬理作用を説明する。
4. 薬物の副作用、有害作用の基本的事項を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	医薬品とは；薬剤投与の基礎	医薬品とは何かを説明できる。 薬物の体内動態を概説できる。 薬物の動態学的相互作用を概説できる。	井関 健
2	医薬品の種類とリハビリテーション	医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる。 医薬品添付文書とは何かを説明できる。 リハビリテーションに薬剤の知識がなぜ必要かを概説できる。	井関 健
3	治療薬各論1：精神神経系・循環器系	精神・神経系疾患の主な薬物の作用機序を説明できる。 循環器系疾患の主な薬物の作用機序を説明できる。 リハビリに影響を及ぼす副作用とその対処方法を説明できる。	井関 健
4	治療薬各論2：呼吸器系・内分泌、代謝系	呼吸器系疾患の主な薬物の作用機序を説明できる。 内分泌、代謝系疾患の主な薬物の作用機序を説明できる。 リハビリに影響を及ぼす副作用とその対処方法を説明できる。	井関 健
5	治療薬各論3：微生物感染症治療薬	病原微生物感染症の主な薬物の作用機序を説明できる。 感染症治療薬を選択するときの注意点を説明できる。 感染症治療薬使用時のリハビリへの影響とその対処方法を説明できる。	井関 健
6	治療薬各論4：鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬	主な鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬の作用機序を説明できる。 鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬を使用するときの注意点を説明できる。 鎮痛薬・抗炎症薬・抗アレルギー薬使用時のリハビリへの影響とその対処方法を説明できる。	井関 健
7	治療薬各論5：抗腫瘍治療薬	主な抗悪性腫瘍薬についてその作用機序を説明できる。 抗悪性腫瘍薬適用の基本方針を説明できる。 抗悪性腫瘍薬使用時のリハビリへの影響とその対処	井関 健

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		方法を説明できる。 がん治療における疼痛管理についてその概略を説明できる。	
8	疾患・病態に応じたリハ薬剤の考え方	フレイルの原因とポリファーマシーとの関連性を説明できる。 医原性サルコペニアと関連薬剤について理解できる。 薬剤性パーキンソン症状について説明できる。	井関 健

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験100%、100点満点で60点以上を合格とする。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

宮越浩一 編 「リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理」羊土社 2019年

若林 秀隆 代表編集 「機能・活動・参加とQOLを高める リハビリテーション薬剤」じほう 2019年

宮野佐年・江藤文夫 編 「リハビリテーションにおける薬物療法ガイド」医歯薬出版 1998年

【学修の準備】

配布した資料に目を通し、生理学や生化学の用語を事前に調べておくこと。（80分）

前回の授業内容を復習しておくこと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

薬剤師

【実務経験を活かした教育内容】

長期実務経験を基に、チーム医療においてリハビリテーション専門職が備えておくべき医薬品に関する基本的事項を講述し、多種多様な医薬品の特性に関する理解を深めるための講義を行う。